



## 平成30年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成30年2月2日

上場会社名 株式会社トランスジェニック  
コード番号 2342 URL <http://www.transgenic.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 福永 健司

問合せ先責任者 (役職名) 経理財務部長 (氏名) 渡部 一夫

TEL 092-288-8470

四半期報告書提出予定日 平成30年2月5日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成30年3月期第3四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第3四半期	1,416	8.1	53		75		72	
29年3月期第3四半期	1,540	14.8	50		15		8	

(注) 包括利益 30年3月期第3四半期 83百万円 ( %) 29年3月期第3四半期 52百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第3四半期	4.96	
29年3月期第3四半期	0.60	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年3月期第3四半期	4,060	3,446	84.4	230.61
29年3月期	3,902	3,173	81.0	220.20

(参考) 自己資本 30年3月期第3四半期 3,428百万円 29年3月期 3,160百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期		0.00		0.00	0.00
30年3月期		0.00			
30年3月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,410	4.7	200	29.9	170	92.6	110	36.3	7.51

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年3月期3Q	14,866,941 株	29年3月期	14,354,941 株
期末自己株式数	30年3月期3Q	1,421 株	29年3月期	1,421 株
期中平均株式数(四半期累計)	30年3月期3Q	14,575,454 株	29年3月期3Q	14,334,574 株

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現時点で入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因によって大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績見通しのご利用に当たっての注意事項については、四半期決算短信(添付資料)4ページ「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

なお、当社は、当第3四半期連結累計期間に、新株予約権の行使により、新たに普通株式512,000株を発行しており、業績予想の「1株当たり当期純利益」は当該株式を含めて算定しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、設備投資や雇用環境の改善など景気は緩やかな回復基調が続き、個人消費も持ち直しの兆しが見られたものの、海外政治情勢の不安などにより、景気の先行きについては依然不透明な状況が続きました。

当社グループが属するバイオ関連業界におきましては、人々の健康と豊かな生活の実現へ向け、産学連携による共同研究や企業の投資が活発化し、新製品の研究・開発が相次いでおります。このような環境の中で、当社グループは次のような活動を行いました。

ジェノミクス事業においては、遺伝子改変マウス作製受託サービスの作製期間の短縮、さらにコスト低減が図れるゲノム編集技術(CRISPR/Cas9)を活用した受注に注力するとともに、CRISPR/Cas9ノックイン法によるゲノム編集技術において、これまでは難しかった点突然変異の導入や大きなサイズの組換えを受精卵で効率よく行うことを可能とする高効率CRISPR/Cas9ノックイン法に関する特許の日本国内での非独占的使用権について、国立大学法人東京医科歯科大学とライセンス契約を締結いたしました。また、アルツハイマー病モデルマウスとしてのAPP<sub>OSK</sub>マウス<sup>※1</sup>、野生型TAU<sup>※2</sup>トランスジェニックマウス、精神・神経疾患モデルマウス、及び非アルコール性脂肪肝炎(NASH)<sup>※3</sup>モデルマウスとしてのAIM欠損マウスについてライセンス契約を締結し、需要の高いモデルマウスのラインナップ拡充を図りました。さらに、資本業務提携先である株式会社免疫生物研究所と、同社が所有する抗体について上記APP<sub>OSK</sub>マウスを用いた非臨床試験によるアルツハイマー病治療薬開発に取り組むべく、共同研究開発契約を締結いたしました。

CRO<sup>※4</sup>事業においては、既存顧客との取引を拡大・深化させるとともに、新規顧客の開拓に注力し受注強化を図りました。また、非臨床試験の更なる受注拡大に向け、顧客(主に製薬企業)の多様なニーズに応えるため、新しい病態モデルの研究開発に取り組みました。重要施策であるジェノミクス事業との連携強化については、ジェノミクス事業が保有するAPP<sub>OSK</sub>マウスや精神・神経疾患モデルマウス等の有用な疾患モデルマウスを用いた中枢神経系非臨床試験での活用に取り組んでおります。

先端医療事業においては、次世代シーケンサー<sup>※5</sup>を用いた肺がん・乳がん・卵巣がん・大腸がん・悪性黒色腫などを対象としたがんクリニカルシーケンス<sup>※6</sup>受託解析サービスを開始するとともに、昨年8月に株式会社日立ハイテクノロジーズと販売代理店契約を締結し、次世代シーケンサーを用いたがんクリニカルシーケンス受託解析サービスの営業強化につとめました。このように、先端医療事業においては、クリニカルシーケンス事業の拡充及び個別化医療への貢献を通じて業績拡大に努めております。

病理診断事業においては、一層の品質向上及び事業効率化に取り組むとともに、豊富な病理診断技術を活かしたサービスの拡充に取り組んでまいりました。特に、子宮頸がんの早期発見に向け、自己採取HPV<sup>※7</sup>検査サービスについて自治体と検査受託契約を締結し、病理診断サービスの営業及び受注拡大に注力いたしました。

---

※1 APP <sub>OSK</sub> マウス	: 大阪市立大学 森 啓 特任教授らが開発した、アルツハイマーに特徴的な加齢に伴った認知機能障害等が認められるマウス
※2 TAU	: 中枢神経系に多量に存在し、脳内の神経軸索輸送に重要な働きを担う
※3 非アルコール性脂肪肝炎(NASH)	: 過食・運動不足・肥満(特に内臓脂肪型)・糖尿病・脂質異常症などに合併した脂肪肝を背景として発症する肝炎
※4 CRO	: Contract Research Organization (医薬品開発業務受託機関)
※5 次世代シーケンサー	: DNAを構成する塩基の配列を高速に読み取りゲノム情報を解読する装置で、得られた情報により病気の診断、治療、創薬に活用される
※6 クリニカルシーケンス	: 次世代シーケンサーを用いて、がん細胞の遺伝子変異を網羅的に解析し、診断や治療の参考となる知見を得るための解析手法
※7 HPV	: Human papillomavirus (ヒトパピローマウイルス)

新規事業への取組みとしては、幅広い分野における事業承継及び事業再生分野に係る助言・支援サービス、並びにM&Aを展開すべく、昨年11月に株式会社T G ビジネスサービス（以下、「T G B S 社」といいます。）を設立いたしました。当社グループを取巻く事業環境は、アカデミア及び製薬企業等の研究開発予算縮小傾向が継続するという厳しい状況であると同時に、当社が属するバイオ業界は、研究開発・技術導入の実行により優位性・特異性の高い製品・サービスで市場開拓を目指すものの、その成果獲得まで多額の先行投資及び時間を要するという特徴を有しております。一方で、我が国においては、タンパク質関連事業及びC R O 事業に関する企業又は事業体に限らず、事業承継問題・国内市場縮小等を背景に、業種・業界を問わずM&A市場が活発な状況を示しており、その関連・支援事業領域は拡大傾向を維持しております。これらを踏まえ、これまで蓄積した事業買収・再生のノウハウを活かし、バイオ業界の事業環境に依存しないビジネスモデルの確立による収益の多様化をより機動的に推進するため、新たに設立したT G B S 社において、幅広い分野における事業承継及び事業再生分野に係る助言・支援サービス、並びにM&Aを展開することといたしました。また、その方針に従い、昨年11月にT G B S 社が情報通信機器関連の開発・販売を行う株式会社ルーペックスジャパンの全株式を取得し子会社化いたしました。T G B S 社による当該子会社化は、当第3四半期連結累計期間より連結収益に寄与しております。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間における当社グループの業績は、売上高1,416,047千円（前年同期比8.1%減）、営業損失53,736千円（前年同期営業利益50,959千円）、経常損失75,161千円（前年同期経常利益15,427千円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は72,240千円（前年同期8,540千円）となりました。

また、昨年12月にT G B S 社が、BtoC及びBtoB電子商取引(eコマース、以下EC)事業者として主に電機製品の小売・卸売を展開する株式会社アウトレットプラザの全株式を取得することを決議し、本年2月1日に全株式を取得して子会社化いたしました。当社グループが保有する製品・サービスと、同社が保有する販売システム・EC事業のノウハウ等を融合させることにより、新しいビジネスモデルの構築も念頭に双方の事業拡大を目指してまいります。

なお、当社グループの売上高は、季節的変動が著しく下半期（特に第4四半期）に売上高が集中する傾向にあります。

セグメントの業績は、次のとおりであります。各セグメントの業績数値につきましては、セグメント間の内部取引高を含めて表示しております。

セグメント	売上高			営業損益		
	金額（千円）	前年同期比		金額（千円）	前年同期比	
		金額（千円）	増減率（%）		金額（千円）	増減率（%）
ジェノミクス事業	190,886	△90,068	△32.1	△11,727	△78,840	—
C R O 事業	614,907	△134,195	△17.9	70,037	△74,482	△51.5
先端医療事業	230,541	13,704	6.3	△1,141	32,625	—
病理診断事業	302,365	△2,810	△ 0.9	1,976	△5,517	△73.6
T G B S 事業	82,322	—	—	13,802	—	—

① ジェノミクス事業

当事業では、遺伝子破壊マウスの作製受託、モデルマウスの販売及び抗体作製受託、新規バイオマーカーの開発などを行っております。当第3四半期連結累計期間の業績は、主要顧客であるアカデミア等の研究開発予算縮小傾向や遺伝子改変マウスの作製技術の普及という環境変化の中で、期首受注残高が前年に比し減少していたことに加えて、マウス作製受託等の期中の受注が伸び悩み、売上高、営業損益につきまして前年同期比減収減益となりました。今後とも、遺伝子操作技術の改良をより推進して遺伝子改変マウス作製受託サービスの向上を図るとともに、アルツハイマー病モデルマウス等のモデルマウスの販売促進に取り組んでまいります。

② C R O 事業

当事業では、医薬品・食品の臨床試験受託及び薬理薬効試験、安全性薬理試験、薬物動態試験などの非臨床試験受託を行っております。当第3四半期連結累計期間の業績は、製薬企業の発注時期等の影響で期首受注残高が前年に比し減少していたことにより、売上高、営業損益につきまして前年同期比減収減益となりました。なお、第4四半期以降の売上となる受注残高につきましては、当第3四半期累計期間より営業利益の更なる拡大に向けて順調に推移しております。

## ③ 先端医療事業

当事業では、遺伝子解析受託サービス及び個別化医療に向けた創薬支援サービスを行っております。当第3四半期連結累計期間の業績は、遺伝子解析受託サービスが好調であったことより、売上高は前年同期比増収となり、前年同期は33,767千円の損失であった営業損益につきましても損失額が大幅に改善いたしました。引き続き、受注強化に努め、当第3四半期累計期間より営業利益の更なる積み増しを目指してまいります。

## ④ 病理診断事業

当事業は株式会社ジェネティックラボの中核事業であり、病理専門医による豊富な診断実績及び最新のバイオマーカー解析技術による高品質な病理診断サービスを提供しております。当第3四半期連結累計期間の業績は、受託検体数の伸び悩みにより、売上高は前年同期比小幅減収となりましたが、営業損益につきましては黒字を確保いたしました。今後も、受託検体数の増加及び新規サービスの自己採取HPV検査の普及に取り組んでまいります。

## ⑤ TGBS事業

当事業は、昨年11月に設立した株式会社TGビジネスサービスによる事業であり、幅広い分野における事業承継及び事業再生分野に係る助言・支援サービス、並びにM&Aを行う予定であります。同社による株式会社ルーペックスジャパンの子会社化等により、当第3四半期連結累計期間より、売上高82,322千円を計上し、営業損益も黒字を計上しております。

## (2) 財政状態に関する説明

## (資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は1,729,097千円となり、前連結会計年度末に比べ31,996千円増加いたしました。これは主に商品及び製品が73,390千円、仕掛品が100,426千円、原材料及び貯蔵品が10,555千円、その他流動資産が59,907千円それぞれ増加した一方、現金及び預金が61,673千円並びに受取手形及び売掛金が150,780千円それぞれ減少したことによるものであります。

固定資産は2,331,466千円となり、前連結会計年度末に比べ126,140千円増加いたしました。これは主に有形固定資産の購入による取得60,488千円、株式取得による無形固定資産の「のれん」163,087千円の計上により増加した一方、有形固定資産及び無形固定資産の減価償却65,490千円、無形固定資産の「のれん」の償却30,578千円を計上したことによるものであります。

## (負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は428,702千円となり、前連結会計年度末に比べ59,569千円減少いたしました。これは主に買掛金が2,495千円、その他流動負債が9,728千円それぞれ増加した一方、未払金が30,724千円、未払法人税等が33,343千円、賞与引当金が6,605千円、受注損失引当金が1,120千円それぞれ減少したことによるものであります。

固定負債は185,286千円となり前連結会計年度末に比べ55,539千円減少いたしました。これは主に未払金への振替により長期未払金が57,805千円減少したことによるものであります。

## (純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は3,446,574千円となり、前連結会計年度末に比べ273,246千円増加いたしました。これは主に、新株予約権の行使により資本金及び資本剰余金がそれぞれ175,402千円増加する一方、親会社株主に帰属する四半期純損失72,240千円の計上、その他有価証券評価差額金11,176千円の減少などによるものであります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループの売上高は季節的変動が著しく、下半期に売上が集中する傾向にあります。当第3四半期連結累計期間における業績は概ね計画どおりに推移し、受注も順調に獲得しております。

以上により、現時点におきましては平成29年5月12日に公表いたしました平成30年3月期通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,059,180	997,507
受取手形及び売掛金	416,798	266,018
商品及び製品	4,551	77,941
仕掛品	123,085	223,512
原材料及び貯蔵品	27,063	37,618
その他	67,563	127,471
貸倒引当金	△1,142	△971
流動資産合計	1,697,101	1,729,097
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	1,050,471	1,064,600
減価償却累計額	△344,231	△383,897
建物及び構築物(純額)	706,239	680,702
土地	621,290	621,290
その他	513,408	595,750
減価償却累計額	△364,859	△415,511
その他(純額)	148,548	180,238
有形固定資産合計	1,476,078	1,482,231
無形固定資産		
のれん	119,056	251,564
その他	11,879	11,613
無形固定資産合計	130,936	263,177
投資その他の資産		
投資有価証券	515,263	492,673
その他	85,547	95,883
貸倒引当金	△2,500	△2,500
投資その他の資産合計	598,311	586,056
固定資産合計	2,205,325	2,331,466
資産合計	3,902,426	4,060,564

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	4,212	6,707
未払金	216,037	185,313
未払法人税等	45,650	12,306
賞与引当金	8,636	2,031
受注損失引当金	1,120	—
その他	212,614	222,343
流動負債合計	488,272	428,702
固定負債		
長期末払金	231,220	173,415
その他	9,606	11,871
固定負債合計	240,826	185,286
負債合計	729,099	613,989
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,718,017	2,893,419
資本剰余金	465,963	641,366
利益剰余金	12,490	△59,750
自己株式	△1,725	△1,725
株主資本合計	3,194,745	3,473,310
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△34,056	△45,232
為替換算調整勘定	—	83
その他の包括利益累計額合計	△34,056	△45,148
新株予約権	12,637	18,413
純資産合計	3,173,327	3,446,574
負債純資産合計	3,902,426	4,060,564

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
売上高	1,540,561	1,416,047
売上原価	1,039,345	993,917
売上総利益	501,216	422,130
販売費及び一般管理費	450,256	475,866
営業利益又は営業損失(△)	50,959	△53,736
営業外収益		
受取利息	599	573
補助金収入	4,789	—
その他	1,204	2,946
営業外収益合計	6,593	3,520
営業外費用		
支払利息	757	589
持分法による投資損失	30,533	10,987
社債発行費等	—	6,332
その他	10,834	7,036
営業外費用合計	42,125	24,945
経常利益又は経常損失(△)	15,427	△75,161
特別利益		
関係会社株式売却益	1,892	—
受取補償金	3,424	—
持分変動利益	1,442	—
特別利益合計	6,759	—
特別損失		
固定資産除却損	9,007	—
投資有価証券清算損	3,127	—
特別損失合計	12,135	—
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	10,051	△75,161
法人税、住民税及び事業税	3,775	9,945
法人税等調整額	14,817	△12,866
法人税等合計	18,592	△2,920
四半期純損失(△)	△8,540	△72,240
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△8,540	△72,240

(四半期連結包括利益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)
四半期純損失(△)	△8,540	△72,240
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△44,194	△11,176
為替換算調整勘定	—	83
その他の包括利益合計	△44,194	△11,092
四半期包括利益	△52,735	△83,333
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△52,735	△83,333
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

前第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ジェノミクス 事業	CRO事業	先端医療事業	病理診断事業			
売上高							
外部顧客への売上高	280,954	743,117	209,663	305,176	1,538,911	1,650	1,540,561
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	5,986	7,173	—	13,159	△13,159	—
計	280,954	749,103	216,837	305,176	1,552,071	△11,509	1,540,561
セグメント利益又は損失 (△)	67,113	144,520	△33,767	7,493	185,359	△134,400	50,959

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益又は損失(△)の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用△136,050千円、持分法適用関連会社からのコンサルティング収入等1,650千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年12月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント					合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ジェノミクス 事業	CRO事業	先端医療事業	病理診断事業	TGBS事業			
売上高								
外部顧客への売上高	190,886	609,197	227,774	302,365	82,322	1,412,547	3,500	1,416,047
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	5,709	2,766	—	—	8,476	△8,476	—
計	190,886	614,907	230,541	302,365	82,322	1,421,023	△4,976	1,416,047
セグメント利益又は損失 (△)	△11,727	70,037	△1,141	1,976	13,802	72,947	△126,683	△53,736

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益又は損失(△)の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用△130,183千円、各報告セグメントに含まれないコンサルティング収入3,500千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失(△)と調整を行っております。

2 報告セグメントの変更等に関する事項

当第3四半期連結会計期間より、株式会社TGビジネスサービスを設立し、連結子会社としたことに伴い、報告セグメントとして「TGBS事業」を新たに追加しております。

また、当第3四半期連結会計期間より、株式会社ルーペックスジャパンの株式を取得したことにより、同社及びその子会社1社を連結子会社とし、報告セグメント「TGBS事業」へ含めております。

これにより、当社グループの報告セグメントは、「ジェノミクス事業」、「CRO事業」、「先端医療事業」、「病理診断事業」及び「TGBS事業」の5区分に変更しております。

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

当第3四半期連結会計期間において、株式会社ルーペックスジャパンの株式を取得し、連結の範囲に含めたことに伴い、「TGBS事業」のセグメントにおいて、のれん163,087千円が発生しております。